

屋久島沿岸で採集されたコジワクダヒゲガニの記録

藤田喜久¹・藤井琢磨²・大澤正幸³¹ 〒 903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4 沖縄県立芸術大学² 〒 252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866 日本大学生物資源科学部³ 〒 690-8504 島根県松江市西川津町 1060 島根大学エスチュアリー研究センター

Abstract

The rarely recorded anomuran sand crab, *Albunea occulta* Boyko, 2002, is collected from the coast of Yakushima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. This is the third certain published record of the species in Japan, and also the first record of the species in Kagoshima Prefecture.

はじめに

鹿児島県屋久島では、沿岸の砂泥底性環境において、かかり網漁法によってアサヒガニ *Ranina ranina* (Linnaeus, 1758) を漁獲する漁業（アサヒガニかかり網漁）が行われている。その際に混獲された十脚目甲殻類が、かごしま水族館（通称いおワールド）に展示用として寄贈されることがある。本稿第2著者の藤井は、かごしま水族館に所属していた当時、寄贈された十脚目甲殻類の生体個体中に未同定のクダヒゲガニ類1個体を見出した。標本の精査の結果、この個体はコジワクダヒゲガニ *Albunea occulta* Boyko, 2002 に同定された。

コジワクダヒゲガニは、日本の四国沖（土佐湾）から琉球列島（宮古島）、台湾、フィリピン、オーストラリア（東西沿岸）にかけて分布するクダヒゲガニ科クダヒゲガニ属の一種であるが（Boyko, 2002; Osawa et al., 2010; 藤田ほか, 2017）、鹿児島県下からは未記録であるため、本稿にて鹿児島県海域における本種の初記録として報告する。

材料と方法

今回報告する標本は、屋久島安房の沖合水深

約40 mに設置したアサヒガニかかり網によって、2022年11月8日に採集された。採集された個体は生きたままかごしま水族館に寄贈され、第2著者によって冷凍保存された。その後、解凍後に写真撮影を行った後、70%エタノールにて保存した。また、Boyko (2002) による標本の甲長 (carapace length: CL) の計測方法（頭胸甲前縁中央部の額角先端から後縁中央凹部の長さを計測）に従い、頭胸甲前縁中央部の額角先端から後縁中央凹部までの長さをデジタルノギスにより計測した。本研究で得られた標本は、琉球大学博物館（風樹館, RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan）に収蔵されている。

結果と考察

調査標本 RUMF-ZC-6146, 1メス (CL 18.7 mm), 屋久島安房沖, 水深約40 m, 2022年11月8日, 阿蘇品 嘉文氏採集。

備考 今回得られた標本は、(1) 頭胸甲の第1横溝 (CG1: 甲の最前縁の横溝; 図1C参照) が中央の長い横溝と左右の短い横溝とに分離すること、(2) 頭胸甲の第11横溝 (CG11: 甲の後縁中央近くの横溝; 図1D参照) を有すること、(3) 第3胸脚指節の基部突起 (heel) が鋭く尖ること (図1E)、(4) 雌の尾節が卵形を呈し、後縁中央部がやや突出すること (図1F)、の形態的特徴を有しており、先行研究 (Boyko, 2002; Osawa et al., 2010; 藤田ほか, 2017) が示した *Albunea occulta* Boyko, 2002 の標徴形質に良く一致した。また、

Fujita, Y., T. Fujii and M. Osawa. 2024. Record of *Albunea occulta* Boyko, 2002 (Decapoda: Anomura: Albuneidae) collected from the coast of Yakushima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 153–155.

✉ YF: Okinawa Prefectural University of Arts, Shuri-Tounokura 1-4, Naha, Okinawa 903-8602, Japan (e-mail: fujitayo@okigei.ac.jp). Received: 25 October 2024; published online: 25 October 2024; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-032.pdf

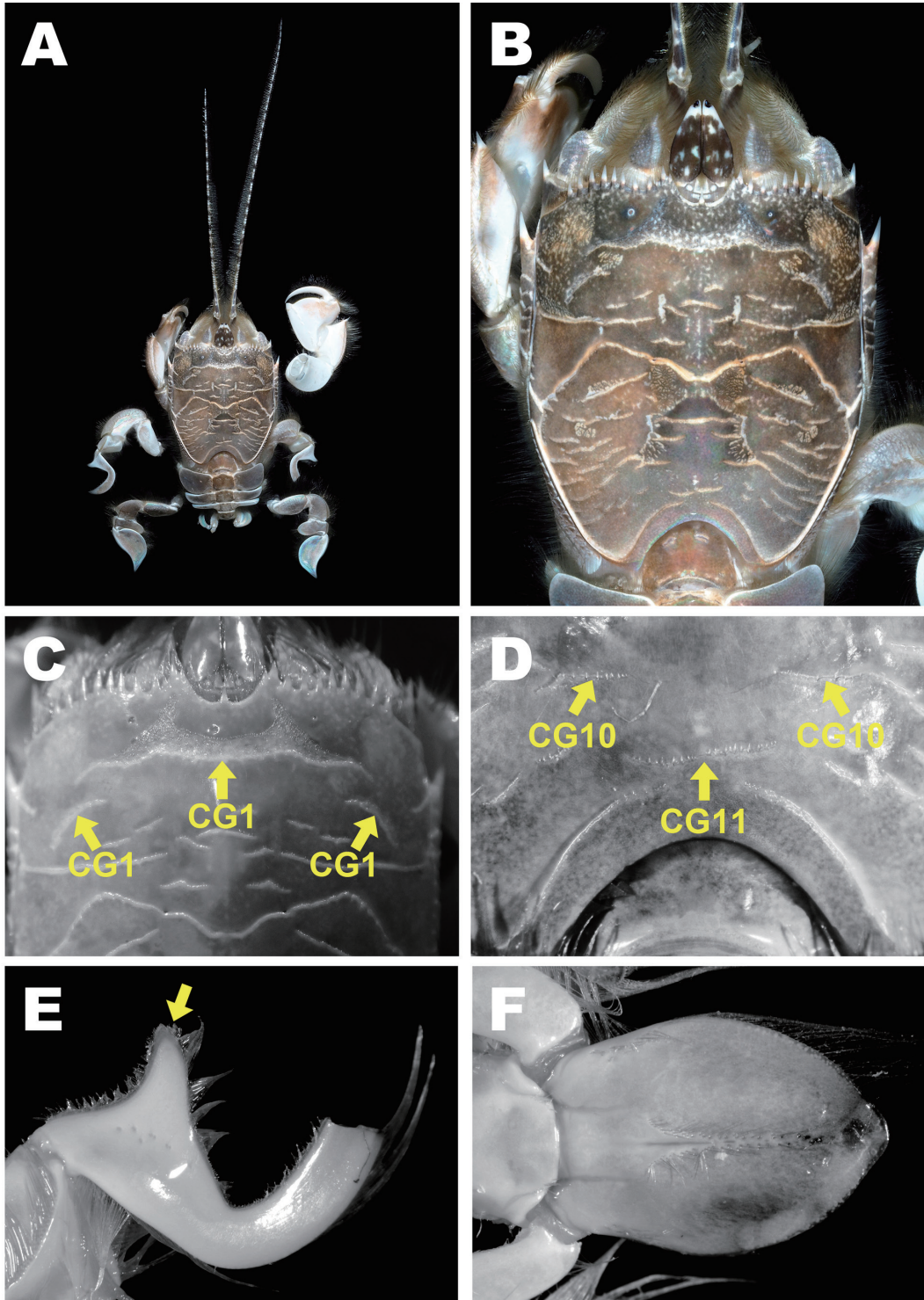


図1. 屋久島近海で採集されたコジワクダヒゲガニ。A, 全体背面; B, 頭胸甲背面; C, 頭胸甲前縁部, 背面 (CG1, 第1横溝); D, 頭胸甲後縁部, 背面 (CG10, 第10横溝; CG11, 第11横溝); E, 第3胸脚指節, 側面, 矢印は基部突起 (heel) を示す; F, 尾節, 背面。

Fig. 1. *Albunea occulta* Boyko, 2002 collected from the coast of Yakushima Island, Japan. A, whole body, dorsal view; B, carapace, dorsal view; C, anterior part of carapace, dorsal view (CG1, first carapace groove); D, posterior part of carapace, dorsal view (CG10, 10th carapace groove 10; CG11, 11th carapace groove); E, dactylus of third pereiopod, lateral view, arrow indicating heel; F, telson, dorsal view.

今回の標本は、第1触角の鞭部の長さが甲長の2.8倍であり、藤田ら(2017)が示した2.3倍よりは長かったものの、本種に酷似するオキナワクダヒゲガニ *A. okinawaensis* Osawa & Fujita, 2007ではこの値が3.1倍であることから、両種を識別する形質として有効である可能性が改めて示された。

本種は、Boyko(2002)により新種記載された種であり、*Albunea symmysta* (Linnaeus, 1758)にも類似しているとされる。*A. symmysta*は、過去に我が国にて「クダヒゲガニ」の和名が充てられて国内各所から記録されてきたが、それらの記録は真の*A. symmysta*ではなく、コジワクダヒゲガニ、ヒメクダヒゲガニ *A. groeningi* Boyko, 2002、ナメラクダヒゲガニ *Paralbunea dayriti* (Serène & Umali, 1965)の3種のうちのいずれかであるとされている(Boyko, 2002)。また、現在までに本種の日本からの確実な記録は土佐湾と宮古島から得られた標本に限られていた(Boyko, 2002; 藤田ほか, 2017)。従って、今回屋久島近海で採集された標本は、本種の国内における3例目の確実な記録であり、また、鹿児島県下における初めての記録となる。

屋久島近海のアサヒガニかかり網漁で混獲された砂泥底性十脚目甲殻類は、今回(2022年)以外にも、2014年4月および2015年4月にかごしま水族館に寄贈されており、その搬入記録からはカラッパモドキ *Cycloes granulosa* De Haan, 1837、ヒメキンセンガニ *Izanami curtispina* (Sakai, 1961)、ツノダシシガニ *Rhinolambrus contrarius* (Herbst, 1804)と共に、「クダヒゲガニ」が記録されている(佐々木 章, 私信)。これらの搬入記録には、残

念ながら写真や標本など種同定の根拠となる情報は残されていないが、和名「クダヒゲガニ」として屋久島から過去に記録された種は、本稿にて前述したようにコジワクダヒゲガニであった可能性がある。屋久島沿岸における本種の生息状況の把握や、砂泥底性十脚目甲殻類の多様性把握には今後の継続的な調査が必要であるが、そのためには地域の漁業者らと水族館および大学等研究機関との連携が必須となる。本研究を契機としてこれらの連携がより一層強化され、地域の生物多様性解明の促進の一助となることを切に願う。

謝辞

本研究での標本入手にあたり、阿蘇品 嘉文氏(屋久島漁協)および佐々木 章氏(鹿児島市水族館公社)に大変お世話になった。本研究の調査および取りまとめの一部には、JSPS 科研費 23K21774(代表:山本智子)および21H04379(代表:菅浩伸)による支援を受けた。

引用文献

- Boyko, C.B., 2002. A worldwide revision of the recent and fossil sand crabs of the Albuneidae Stimpson and Blepharipodidae, new family (Crustacea: Decapoda: Anomura: Hippoidea). *Bulletin of the American Museum of Natural History*, 272: 1–396.
- Osawa, M., C.B. Boyko and T.-Y. Chan, 2010. Part I. Hippoidea (Mole crabs). In: T.-Y. Chan (ed.), *Crustacean Fauna of Taiwan: Crab-like Anomurans (Hippoidea, Lithodoidea and Porcellanidae)*. Pp. 1–41, National Taiwan Ocean University, Keelung.
- 藤田喜久・大澤正幸・久保弘文, 2017. 宮古島与那覇前浜の潮下帯砂底環境から得られた十脚目甲殻類. *Fauna Ryukyuna*, 34: 1–6.